

平成24年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立当初より掲げている School Motto (スクール モットー)「Find a Way or Make One (見つけよう つくりだそう 明日への道)」のもと、「自らの手で明日への希望や目標を見だし、その希望(夢)や目標に向かって邁進する」生徒を育てる。特に、「ステップ フォワード ～ 一人一人が『意欲』をもって～」を合言葉に、生徒と教職員とがともに、今在る所から一歩前へ踏み出し、現状を少しでも前に進めるという意志と意欲をもって物事に取り組む。生徒の育成に当たっては、

- (1) 意欲をもって、夢や目標や可能性に挑戦する精神を育む。
- (2) 授業に臨む際の集中力を高め、自ら進んで学習する態度をより一層確立する。
- (3) 地域や社会に積極的に貢献し、信頼される人材を育成する。

ことをめざす。

そのために、学校総体として、生徒一人一人の基礎学力や学習意欲の向上、規範意識や相互の人権尊重意識の向上、充実した内容の教育課程の編成、部活動の活性化、地域連携・中高連携・高大連携の充実等、上述のめざす生徒像を実現するための学校力を常に向上させることのできる学校づくりをめざす。

2 中期目標

1 「確かな学力」の育成、「魅力ある授業づくり」の推進

- (1) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善に取り組む。

ア 首席・指導教諭を核に、公開授業や研究授業、授業アンケートを効果的に活用した授業改善に組織的に取り組み、「ICTを活用した授業」「言語活動の充実」「生徒の表現力・発表力の向上」への取り組みについても研究を進める。

※ 学校教育自己診断等における生徒の「授業への満足度」(平成23年度58%)を毎年引き上げ、平成24年度には65%、平成26年度には75%にする。また、生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率(平成23年度35%)を毎年引き上げ、平成24年度には50%、平成26年度には65%にする。

2 夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立、地域連携の推進及び地域への「役立ち感」の醸成

- (1) 人権教育、キャリア教育、志学を総合的に行うことのできる指導計画を確立する。

ア 「学年ごとの計画」から「3年間を見通した計画」への改善に取り組み、平成26年度に計画を完成する。また、計画に地域の人材・施設の活用を積極的に取り入れ、地域のニーズも取り入れながら取り組みを進める。

※ 学校教育自己診断等において、「人権教育の充実度」に関する項目を再構築し、生徒の肯定率を平成24年度には60%にし、その後徐々に引き上げ、平成26年度には75%にする。

※ 学校教育自己診断等において、「本校のキャリア教育や志学の充実度」に関する項目を新設し、生徒の肯定率を平成24年度には60%にし、その後徐々に引き上げ、平成26年度には75%にする。

- (2) 地域連携を推進するとともに、地域貢献の機会を確立し、地域への「役立ち感」を醸成する。

ア 授業、クラブ、生徒会等において、地域の方々と触れ合う機会を増やし、生徒に「自分たちが本校で学習したり活動したりしたことを地域の方々等に役立てることができる(貢献できる)」ことを実感させ、自主的な行動に繋げさせる。

※ 学校教育自己診断等において、「役立ち感」に関する項目を新設し、生徒の肯定率を平成24年度には60%にし、その後徐々に引き上げ、平成26年度には75%にする。

3 部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上

- (1) クラブ加入を促進する。

ア 1年次当初の体験入部や仮入部等の取り組みを充実させ、クラブ加入を促進する。

※ 1年生のクラブ加入率・退部率(平成23年度は順にそれぞれ65%、12%)を平成24年度にはそれぞれ70%、7%にし、平成26年度にはそれぞれ80%、0%にする。

- (2) クラブ員のリーダーシップによる全校的な生活規律の向上に取り組む。

イ クラブ代表者会議やクラブ員集会を定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。

ウ クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車通学マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。

※ 学校教育自己診断等において、「生活規律」に関する項目を再構築し、生徒・保護者・教職員の肯定率をいずれも平成24年度には65%にし、平成26年度には75%にする。

4 教育相談機能のさらなる充実及び誇れる「きれいな学校」づくりの取り組み

- (1) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能をさらに充実させ、障がいがある生徒や課題を抱える生徒の自立を支援できる体制をより一層確立する。

ア カウンセリングマインドをもって生徒に接することをより一層徹底する。

イ SCの延べ30回の学校訪問回数を確保するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。

※ 学校教育自己診断等における生徒の「学校は生徒の意見をよく聞いてくれる」「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」「担任以外にも相談室等で気軽に先生やSCに相談することができる」の肯定率(平成23年度は順に34%、30%、28%)をいずれも平成24年度には50%にし、その後徐々に引き上げ、平成26年度には65%にする。

- (2) 清掃指導を充実させ、生徒の美化についての意識を高め、「きれいな学校であること」を誇りに思えるようにする。

ア 生徒に清掃の仕方について丁寧に指導する。

イ 校内美化キャンペーンを含め有効な企画を実施し、美化についての生徒の意識・自主性を育てる。

※ 学校教育自己診断等において、「本校は清掃がいきとどいている(平成23年度教職員肯定率28%)」という項目を生徒向けにも設け、生徒・教職員の肯定率を平成24年度には50%にし、その後徐々に引き上げ、平成26年度には70%にする。

5 国際理解教育の推進

- (1) 語学研修の取組み(他校との合同実施)を構築する。

ア 本校でまだ充実した取組みができていない国際交流・国際理解教育を推進するため、語学研修の取組み(他校との合同実施)を構築する。

※ 平成24年度に準備チームを立ち上げ、平成25年度から生徒募集を開始し、平成26年度には取組みを定着させる。

6 学校説明会及び広報活動の充実

- (1) 学校説明会や広報活動(特に、広報誌やホームページ)の充実を図る。特に、授業の紹介、生徒の発表の様子の紹介をたくさん盛り込む。

ア 学校説明会については、8月以前の実施の必要性の検討を含め、中学校側の意向・意見を聞きながら、再構築する。

イ 授業紹介コーナー、学年のページ等の充実を図る。

※ 平成24年度以降、学校説明会への参加者数を、平成23年度並みに保つか、または、平成23年度よりも増加させる。

※ 中学校側に適宜聞き取りを行い、その結果、肯定的な意見が多くなるようにする。

1～6を通して、3年後には、

○学校教育自己診断等における生徒の「学校へ行くのが楽しい」(平成23年度72%)を90%にする。

○家庭学習の時間について、平成23年度と比べて全校生徒の延べ時間を倍増させ、「0時間」の生徒の割合を0%に近づける。

○年度末の進級率・卒業率(平成23年度「①仮進級で進級した者を含む」が96%で「②仮進級で進級した者を含まない」が83%)について①を100%②を93%にする。

○懲戒の件数と人数を平成23年度の半分以下にする。

○入学者選抜における「本校の志願倍率」が「後期選抜の1学区の平均志願倍率」を上回るようにする。

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 24 年 12 月実施分〕	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざし、授業改善を最重要課題として、プロジェクトチーム「OKM」を立ち上げて取り組んだが、生徒の「授業への満足度」は64%〔6%向上〕、「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率は42%〔7%向上（因みに、H23は35%、H22は31%、H21は19%）〕にとどまった。しかしながら、「発表の機会がある」「ICTを使う機会がよくある」の生徒の肯定率がそれぞれ48%〔27%向上〕41%〔20%向上〕、また、「生徒参加型授業への工夫をしている」「グループ学習を取り入れている」「ICTを活用している」「他の教員の授業を見学する機会がある」「教員間での授業方法の検討の機会がある」の教職員の肯定率がそれぞれ85%〔25%向上〕61%〔27%向上〕71%〔24%向上〕84%〔65%向上〕79%〔50%向上〕など、まだまだ成果には直接は結び付いていないが教職員の取組みの努力の跡はうかがえる。来年度は、今年度の取組みの流れを踏襲していくとともに、府教育センター等の外部の力の活用も視野に入れながらさらなるステップアップにつなげたい。ただ、上述の生徒の肯定率と教職員の肯定率の数値のギャップについての要因の精査が喫緊の課題である。また、授業アンケートにおける各授業についての「授業への満足度」「『授業が分かりやすく充実している』の肯定率」の平均値がいずれも75%以上であり、学校教育自己診断結果の値との間に差が生じている。授業アンケートの設問項目との整合性を検討しながら、このことの要因を究明必要がある。そして、自己診断には表れていないが、取り組む教職員の「負担感」や「やらされ感」が校内での議論の中で話題となっており、そのことによって「OKM」のメンバーを再編成したが、これらのことも今後の検討課題である。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は、人権教育の現状の分析と課題の把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組むとともに、1年生に対する「3年間を見通した計画」の策定に取り組んだが、生徒の「人権教育の充実度」の肯定率が39%〔11%向上〕にとどまり、また、教職員の「人権教育への取組みの充実度」は複数項目平均で54%にとどまった。ただ、「人権尊重に関する課題や指導方法について教職員で話し合っている」「参加体験型の指導をしている」「ノーマライゼーションの理念に基づき、障がい者理解を深める指導をしている。」「男女共生意識に基づく指導をしている」の教職員の肯定率がそれぞれ61%〔23%向上〕33%〔14%向上〕64%〔27%向上〕65%〔21%向上〕など、教職員の取組みの努力の跡はうかがえる。人企委に2人の首席を加え、中長期を視野に協議中であり、外部の力の活用も視野に入れながら来年度へ協議を継続したい。 「キャリア教育充実度」の生徒の肯定率が31%、教職員の肯定率が44%にとどまっている。今年度、組織的な取組みができず、キャリア教育講演会、「総合」の授業での取組み、様々な形態での高大連携等、取組みは増えているのだが、狭い意味での進路指導を含め、これらの取組みの有機的なつながりに課題がある。来年度、改めて、組織的な対応が求められる。 「生活規律」の項目の肯定率が、教職員は複数項目平均で82%であるのに対し、生徒は48%、保護者は複数項目平均で52%にとどまっている。教える側と受け止める側でのギャップが生じており、その要因の精査が喫緊の課題である。 「役立ち感」の項目の生徒の肯定率が30%にとどまっている。吹奏楽部、和太鼓部、野球部等、クラブを中心に様々な形態で地域貢献をしているが、全体のものになっておらず、また、生徒の実感に必ずしもつながっていない可能性がある。また、授業で学習したことの役立てについても今後の課題である。 「教育相談体制充実度」の肯定率が、教職員は94%であるのに対し、生徒は複数項目平均で41%〔10%向上〕、保護者は46%にとどまっている。昨年同様、1年入学当初の早期個人面談やオリエンテーション実施の成果として、1年生は昨年度の1年生と同様落ち着いた状態にあり、生徒指導全般から見ても成果はあがっている。今後、教育相談体制について、より一層、生徒や保護者に本校の取組みのよさをアピールしていく必要がある。 「清掃の状況」の項目の肯定率が、生徒は37%、教職員は38%〔10%向上〕にとどまっている。今後、学校をあげて清掃に関して取り組む必要がある。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長の責務について、「教育理念や学校運営の考え方を明らかにしている」の教職員の肯定率が86%〔2%減少〕であるのに対し、「リーダーシップの発揮」の教職員の肯定率は57%〔9%減少〕にとどまっており、校長としてのマネジメントに課題がある。より一層研鑽を積んで、変化の激しい時代の学校経営にふさわしいマネジメント力を備えなければいけない。 	<p>第1回（10/4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「確かな学力」の育成、「魅力ある授業づくり」の推進 について <ul style="list-style-type: none"> ・チームOKMは頑張っている。特に若手が。 ・少人数授業はよい。 ・英語のチャンツの取組みはよい。 ・寝ている生徒や騒がしい生徒は昨年度よりは少ない。 ・従来からある古い講義形式の授業が多く、面白くない。生徒を中心に据える授業、生徒参加型授業（グループワーク等）へと工夫・改善を。 ・outputの重視を。 ・子どもに合わせた授業を。 ・コミュニケーション力や考える力の育成を。 ・「学びのピラミッド」を認識するよう。 ・先生は寝ている生徒や騒がしい生徒を注意していない。 ・数値目標が達成できるよう尽力を。 ・もっとパソコンを活用した授業を。 ・プレゼンを経験する機会を増やすべき。 ○夢と志（目的意識）を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立、地域連携の推進及び地域への「役立ち感」の醸成 について <ul style="list-style-type: none"> ・居心地アンケート等、いじめ等をタイムリーに状況把握できるよう工夫を。 ・現状分析をしっかりと、「3年間を見通した計画」の策定に尽力を。 ・夢と志をもたせることが大切。1年生のうちから、オープンキャンパスや大学見学を実施して、授業へのモチベーションアップを図るよう。 ・自分の将来を考え、それに向き合えるプログラムを。 ・マッシュルームコンサートはすばらしい。地域に根ざした取組みを末永く。 ・高校と地域との結び付きをもっと広げてほしい。 ・高校の教育活動を地域に発信しPRを。 ○部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上 について <ul style="list-style-type: none"> ・自転車マナー指導の充実を。 ・挨拶の大切さを指導するよう。 ・あぐらをかいて椅子に座っている生徒の指導を。 ○教育相談機能のさらなる充実及び誇れる「きれいな学校」づくりの取組み について <ul style="list-style-type: none"> ・教室が汚い。教室の環境整備を。 ・教室が雑然とし過ぎ。教室のゴミ箱のゴミがあふれそう。飲み物パックが散乱。 ・かばんが散乱。机の上が汚い。身の回りを整理整頓する習慣を付けるべく指導を。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・第三者の意見を聞き入れて改善していこうとする姿勢が感じられた。 <p>第2回（2/15）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「確かな学力」の育成、「魅力ある授業づくり」の推進 について <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを使う機会がよくある」が20%、「授業で発表する機会がある」が27%向上したのはすばらしい成果。 ・「従来の講義形式」の授業からの脱却が課題。 ・生徒にアウトプットの機会を持たせることが非常に重要。 ・授業においては、まんべんなく、多くの人の発言を引き出せるような工夫を。 ・経験豊富な教員にも『OKM』に入ってもらって活性化を。 ・「習熟度別指導」の取組みを進めていくのはよいことである。 ○夢と志（目的意識）を持つ生徒の育成に向けた指導計画の確立、地域連携の推進及び地域への「役立ち感」の醸成 について <ul style="list-style-type: none"> ・校内模試を受ける生徒が少ない。 ・勉強に関して意欲や覇気が感じられない。 ・生徒が将来の夢や目標を持つような取組みをして、キャリア教育の充実を。例えば、1年次から大学見学に連れて行くなど、早い段階から進路について考える機会を持たせ、意欲を喚起させる取組みを。 ・「役立ち感」は、広い意味で「キャリア教育」につながる。人と人とのつながり、付き合いが大切。その意味で「役立ち感」を持たせることは重要。 ・地域との密着については、学校全体でなく、クラブ単位でやっているという印象が強い。 ・「やらされている感」でなく、一人になっても自ら進んでやることでの達成感の体感を。 ・「人権教育」の進行が遅いし、「人権教育」関連の肯定率が低い。 ○部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上 について <ul style="list-style-type: none"> ・「部活動」や「生活規律」に関しては、生徒と教職員とで意識にかなりのギャップがある。 ・1年生の退部率が増加したのが気になる。 ・生徒会活動の活性化、生徒の自主性や自立を促すことを望む。 ○教育相談機能のさらなる充実及び誇れる「きれいな学校」づくりの取組み について <ul style="list-style-type: none"> ・「清掃」については、府立高校は汚いという印象が強い。 ・最近の若い人は、掃除の仕方や箒の持ち方を知らない。高校では、なおさら、そこどころから教えなければいけない。 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・企業においても、目標値の設定には難しいものがあるが、中期的目標に関しては、平成24年度に比べて、平成25年度では数値目標（%）が後ろ向きになって（低く設定されて）いる感じがする。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 の 推 進	「確かな学力」の育成、「魅力ある授業づくり」 (1)「わかる授業、充実した授業」「基礎学力の充実」をめざした授業改善への取組み ア 授業改善に取り組むためのチームの編成 イ 定期的な基礎学力調査の取組み ウ 授業アンケートと公開授業を活用した授業改善の推進 エ ICTを活用した授業の推進 オ 言語活動の充実及び生徒の表現力や発表力の向上	ア・首席・指導教諭を核に、学校の教育力向上に取り組むためのプロジェクトチーム「仮称：チームOKM」を編成し、このチームを中心に授業改善への取組みを推進する。 イ・新入生の4月をスタートとして、定期的な基礎学力調査に努める。 ウ・授業アンケート(11月)と公開授業(6月と1月)を活用し授業改善を推進する。 ・公開授業では、中学校と適宜提携し、中学校の教員との研究協議や情報交換を行い、指導方法の改善に資する議論を行う。 エ・ICT活用を全教科に広げられるよう、ICTを授業に活用するための実践に資する研修を行う。 オ・各教科の「言語活動の充実」の内容を明確化するとともに、生徒に発表させる機会を充実させる。	ア・チームの編成状況。 ・授業の工夫・改善の実践についてホームページに掲載。 イ・定期的な基礎学力調査の実施及びその結果の活用状況。 ウ・公開授業のコマ数25以上。 ・学校教育自己診断等における生徒の「授業への満足度」65%(平成23年度58%)、生徒の「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率50%(平成23年度35%)。 エ・研修を最低1回実施。 ・ICT活用の教科数及び全体頻度を平成23年度以上に。 オ・各教科の「言語活動の充実」の内容をホームページに掲載。 ・生徒の発表の様子や生徒の感想等をホームページに掲載。	ア・5月に「OKM」を編成し15名で活動。来年度に向けてメンバーを再編成済。【○】 ・5月7月10月12月に「OKM」主催教職員研修を実施し、内容をHPに掲載済。【○】 イ・学力生活実態調査を現1年生で年度当初から実施。【○】 ウ・公開授業は35コマ実施済。【○】 ・「授業への満足度」64%で6%向上、「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率が42%で7%向上したが、目標には届かず。来年度は外部の力の活用も視野に入りたい。【△】 エ・10月「OKM」主催研修の中で実施。【○】 ・生徒向け自己診断「ICTを使う機会がよくある」の肯定率が41%で20%向上。【○】 オ・取組み事例をHPに掲載済。生徒向け自己診断「授業で発表する機会がある」の肯定率が48%で27%向上。【○】 ・授業の工夫等の内容について、ホームページに20事例を掲載済。【○】 他・習熟度別少人数指導についての教職員研修を10月に実施。その内容をHPに掲載。来年度から習熟度別指導実施を宣言済。【○】
2 の 醸 成	夢と志(目的意識)を持つ生徒の育成に 画の確立、地域連携の推進及び地域への「役立ち感」 (1) 人権教育、キャリア教育、志学を総合的に 行える指導計画の確立に向けた校内体制の整備 ア 1年生の人権教育の「3年間を見通した計画」の策定及び実践並びに次年度に向けての改善・充実 イ 全校的に取り組むための基盤づくり ウ キャリア教育、志学の内容の充実(研修の実施を中心に) (2) 地域への「役立ち感」の醸成 エ 授業、クラブ、生徒会等における地域への「役立ち感」の醸成に関する取組み	(1) ア・人権教育企画委員会(略して「人企委」)に2人の首席を加え、人権教育の現状の分析と課題の把握、今後の方向性と課題解決策の策定に取り組み、1年生に対する「3年間を見通した計画」を策定し、全教職員に提示し、実践する。これをもとに2・3年生の実践も適宜軌道修正して実施する。 ・学年による実践を踏まえながら、人企委が学校全体で年間を通じて成果検証と改善点の検討を行い、内容の改善・充実を図る。 イ・成果検証や改善点の検討については、教職員研修を開催し、全教職員で情報共有しながら次年度計画の策定につなげる。 ウ・チームOKMを中心にキャリア教育や志学の内容の充実のための実践的な研修を実施し、実施計画・実施内容に反映させ、次年度の計画・内容の充実につなげる。 (2) エ・授業、クラブ、生徒会等において、地域の方々と触れ合う機会を増やし、生徒に「自分たちが本校で学習したり活動したりしたことを地域の方々等に役立てることができる(貢献できる)」ことを経験させる。	(1) ア・学校教育自己診断等において「人権教育の充実度」に関する項目を再構築し、生徒の肯定率60%。 イ・学校教育自己診断等において「人権教育に係る校内研修充実度」に関する項目を新設し、教職員の肯定率60%。 ウ・学校教育自己診断等において「本校のキャリア教育や志学の充実度」に関する項目を新設し、生徒の肯定率60%。 (2) エ・学校教育自己診断等において「役立ち感」に関する項目を新設し、生徒の肯定率60%。	(1) ア・人企委に2人の首席を加え、中長期を視野に協議中。生徒向け自己診断「人権教育の充実度」が39%で11%向上したが目標には届かず。来年度へ協議を継続。外部の力の活用も視野に入りたい。【△】 イ・教職員向け自己診断「校内研修充実度」は61%で目標達成だが、「取組み充実度」は複数項目平均で54%にとどまった。【○△】 ウ・生徒向け自己診断「キャリア教育充実度」が31%で目標に届かず。キャリア教育講演会、「総合」の授業での取組み、様々な形態での高大連携等、取組みは増えているが、狭い意味での進路指導を含め、取組みの有機的なつながりが今後の課題。【△】 (2) エ・生徒向け自己診断「学校での勉強や活動で自分は役に立っている」の肯定率が30%で目標に届かず。吹奏楽部、和太鼓部、野球部等、クラブを中心に様々な形態で地域貢献をしているが、全体のものになっておらず、また、生徒の実感に必ずしもつながっていない。また、授業で学習したことの役立ても今後の課題。【△】
3 の 向 上	部活動の活性化及びクラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上 (1) クラブ加入の促進 ア 1年次当初のクラブ加入促進の取組み (2) クラブ員のリーダーシップによる生活規律の向上 イ クラブ代表者会議やクラブ員集会の充実 ウ クラブ員のリーダーシップによる全校的な生活規律の向上	(1) ア・1年次当初の体験入部や仮入部等の取組みを充実させ、クラブ加入を促進する。 (2) イ・クラブ代表者会議やクラブ員集会を定期的に開催し、部長をはじめ、クラブ員の生活規律の向上の徹底を促す。 ウ・クラブ員が、生徒会と連携して、リーダーシップを発揮し、挨拶・遅刻・頭髪・服装・自転車マナー等について適正な状態を保ち、全校的な生活規律の向上につなげる。	(1) ア・1年生のクラブ加入率70%退部率7%(平成23年度は順に65%、12%) (2) イ・クラブ代表者会議やクラブ員集会の年間計画作成 イウ・学校教育自己診断等において「生活規律」に関する項目を再構築し、生徒・保護者・教職員の肯定率65%。	(1) ア・1年生の加入率は61%で5%減少、退部率は13%で1%増加し、目標に届かず。【△】 (2) イ・5月にクラブ員への生活規律オリエンテーション、9月11月に「遅刻防止」「自転車マナー向上」等の注意喚起・啓発のための横断幕やクラス別統計グラフを掲示。【○】 イウ・自己診断「生活規律」の項目の肯定率が生徒向けに48%、保護者向けに複数項目平均52%、教職員向けに複数項目平均82%であり、教える側と受け止める側でのギャップが生じている。【△】
4 の 取 組 み	教育相談機能のさらなる充実及び誇れる「きれいな学校」 (1) 教育相談委員会や特別支援委員会の機能のより一層の充実 ア カウンセリングマインドの徹底 イ SCの学校訪問回数確保及び相談室の利用の促進 (2) 清掃指導の充実、生徒の美化意識の高揚 ウ 丁寧な清掃指導 エ 校内美化のために有効な企画の実施	(1) ア・カウンセリングマインドをもって生徒に接することをより一層徹底する。 イ・SCの延べ30回の学校訪問回数を確保するとともに、相談室の利用案内を生徒や保護者に周知徹底し、相談室の利用を促進する。 (2) ウ・清掃の仕方を生徒に丁寧に指導する。 エ・校内美化キャンペーンやクラブ員のリーダーシップによる清掃活動等、有効だと思われる様々な企画を実施し、美化についての生徒の意識・自主性を育てる。	(1) アイ・学校教育自己診断等における生徒の教育相談関連のいくつかの項目の肯定率50%(平成23年度30%前後)。 (2) ウエ・学校教育自己診断等において「本校は清掃がいきとどいている(平成23年度教職員肯定率28%)」という項目を生徒向けにも設け、生徒・教職員の肯定率50%。	(1) アイ・生徒向け自己診断「教育相談体制充実度」は複数項目平均41%で10%向上したが、目標には届かず。しかし、昨年同様、1年入学当初の早期個人面談やオリエンテーション実施の成果として、1年生は昨年度の1年生と同様落ち着いた状態にある。【△○】 (2) ウエ・自己診断「清掃がいきとどいている」の肯定率が教職員向け38%で10%向上したが、生徒向けでも37%にとどまり、ともに目標には届かず。今後、学校をあげて清掃に関して取り組む必要がある。【△】
5 の 推 進	国際理解教育の (1) 語学研修の取組み(他校との合同実施)の構築 ア 校内での合意、準備チームの立ち上げ イ 語学研修の取組み(他校との合同実施)の構築に向けての作業等	ア・国際理解教育の実践についての他校と本校の状況、本校の特色づくりの課題、学習指導要領や府の指示事項等の根拠資料を全教職員で確認し、校内の合意をとる。 ・首席を中心に、準備チームを編成する。 イ・合同実施が可能な他校の情報を集める。 ・運営方法や付き添い教員の旅費の確保等、取組みを構築するための課題を整理し、順次、その解決策を検討する。	ア・学校全体としての合意の状況。 ・チームの編成状況。 イ・平成25年度から取組みが可能になること。	ア・校内の合意、PTAの了承のもと、国際交流実施に資する基金を設置済。11月には国際交流委員会を設置済。【○】 イ・合同実施の候補と考えていたプログラムの今年度の実施において課題が生じたため、現在のところ参加を見合わせている。11月から2ヶ月間、短期留学生1名を受入れた。【△】
6 の 充 実	学校説明会及び広報活動の (1) 学校説明会や広報活動の充実 ア 学校説明会のスケジュールの再構築 イ 授業紹介コーナーや学年のページ等の充実	ア・学校説明会については、8月以前の実施の必要性の検討を含め、中学校側の意向・意見を聞きながら、再構築する。 イ・授業紹介コーナー、学年のページ等の充実を図る。	ア・学校説明会への参加者数の平成23年度との比較。現状維持または増加。 ・中学校側の肯定的意見の増加。 イ・中学校側の肯定的意見の増加。	ア・参加者数がやや増加。アンケート結果を見る限り、内容についても概ね良好。【○】 ・中学校訪問を延べで約30回増加。良好な連携を維持・発展させている。【○】 イ・トピックス、授業紹介コーナー、授業改善に資する教職員研修等、コンテンツ数を増加。一方で、クラブ活動コーナーの更新、タイムリーな更新に課題がある。【○△】
通 し て	1 と 6 を		●家庭学習時間の増加 ●進級率・卒業率の増加 ●懲戒件数人数の減少	●「0時間」は46%で4%増加、「30分未満(0時間も含む)」は64%で5%減少。【△○】 ●進級率・卒業率は、「仮進級者を含む」が98%で2%増加、「仮進級者を含まない」が85%で2%増加。【○】 ●懲戒については、8件[12名]で昨年度並みを維持、H22からは半減以下。【○】